



ぱるけ

71
通信

障害を持っていても、地域の一員として安心して生活できる社会をつくりたい
認定 特定非営利活動法人アフタースクールぱるけ

春夏秋冬 ~ Cuatro estaciones ~



公益社団法人青年海外協力協会 JOCA 東北視察

6月の梅雨の晴れ間の日。

岩沼にある、ぱるけの職員研修でいわぬまひつじ村 (<https://iwanumahitsuji.jp/>) に行ってきました。こちらは JOCA 東北さんが運営しているひつじと触れ合える施設です。

震災後、人々が離れてしまった大切な場所に、新たな交流の場になることを願い 2 頭のひつじが放牧されました。そのひつじさん達が雑草を食べ、そして豊かな草原になりました。

今ではたくさんひつじさんがのんびり暮らしています。また、敷地内には畑もあります。

親子サークルの皆さんが野菜を育て、野菜のおすわけをひつじさんが食べ、うんちは堆肥になって野菜を元気にする・素敵なサーキュラーエコノミーですね。

その後、岩沼 亀塚温泉に移動。こちらも JOCA 東北さんが運営している複合温泉施設です。

2021 年 3 月末にオープンした「JOCA ジョカ東北」は、岩沼市の地方創生プロジェクト "生涯活躍のまち" をテーマに、天然温泉やウエルネス (健康増進施設)、そば処をはじめ、保育園、障害児・者のデイサービス・就労支援などの事業を展開する複合施設です。子どもからお年寄りまで、障害の有無や国籍を問わず、みんな "ごちゃまぜ!" になって日常的につながり合える地域の拠点を目指しています。(HP より抜粋: <https://www.joca.or.jp/base/tohoku/>) 子どもから高齢者の方、障害の有無にかかわらず、さまざまな人達が利用でき穏やかな時を過ごせる場所でした。

青年海外協力協会 (JOCA (ジョカ)) は、開発途上国の人々のために自分の持つ技術や経験を生かし活動してきた青年海外協力隊の帰国隊員を中心に組織されている、1983 年 12 月に発足した内閣府認定の公益社団法人です。青年海外協力隊で培った精神とその経験を広く普及するため、OB・OG 会をはじめとする多くの団体とのネットワークを活用し、地域に根ざした国際交流・国際協力の先駆者としてはもちろんのこと、日本国内においてもまた、建設的な役割を果たせる、より有益な協力活動を展開していくことを目的としています。(HP より抜粋: <https://www.joca.or.jp/>) ぱるけの監事をお願いしている星さんも協力隊 OV です。ぱるけは「障害の有無にかかわらず地域の一員として安心して生活できる社会構築」をミッションに活動をしているので、JOCA が目指す「日本をごちゃまぜにする」という考えにとっても共感しています。JOCA 東北の皆様、視察受け入れありがとうございました。

代表理事 谷津 尚美

Contents

- p1 春夏秋冬
- p2 JOCA 岩沼視察
- p3 お手伝い紹介、新・復職職員の紹介
- p4 食育アドバイス&レシピ、会員募集
予定・研修など

令和5年度会員募集

6月末現在、賛助会員寄附者合計 89 名です。今年度も 150 名をめざして会員・寄附者を募集しています。

お預かりした会費や寄附金は、きょうだい支援あみーごクラブ、成人余暇支援あみすたなどの NPO 活動費や、新規事業準備等に大切に使用させていただきます。令和 5 年度も応援よろしく願いいたします。

職員研修

「JOCA 岩沼視察」

ひつじ村へGO!



今回ひつじ村、JOCA 東北の施設を視察して始めに思った事は地域との交流だけでなく人と人の繋がりについて改めて考える事の重要性を再認識しました。

施設内では職員と一般の方たちとの交流を通して障害のある方とどう向き合うかが色々な形で行われているのを見て人と人の繋がり方には自分の知らない方法がまだまだある事を知りました。今回の視察で得た知識や経験は今後、子供達にも伝えて社会との関わり方の可能性を広げるものになると思います。(荒川)

施設それぞれが単独にある施設だと交流したりすることは難しくなってしまいますが、同じ敷地にあれば色々な人がいて当たり前環境はとも羨ましく思いました。

今後、このようなタイプの施設が増えて優しい世の中になるといいなあと思いました。(都澤)

いろんなことに「チャレンジ」しているなと思いました。「ごちゃまぜ feat. 多文化共生」をコンセプトに保育所・福祉サービス事業所・温泉・食事・ウェルネスの併設、農園やドックランなど、「ここで今できることは何だろう」とみんな考えて実践されているんだらうなと感じました。ぱるけも「元気になる場所」として頑張っていきたいと思います。(伊豆原)

JOCA が大事にしていることの中で「正しいを固定化しない」「当たり前を疑う」ことが印象的でした。考え方や価値観は一人ひとり違うので、正しいも当たり前も違って構わないのに、人と同じことに安心したり、枠の中にはめ込もうとしがちになるところを一度立ち止まり、いろんな考え等を受け入れていくことが「ごちゃまぜ」につながるんだなと思いました。(熊谷)



広々と広がる畑の向こうに
岩沼千年の丘公園がー

物事を一方向だけで見るのではなく、別の側面から見るという視点が、様々なところで見られ、たくさんの人を巻き込み、繋がり、別の大きな展開が生まれるのだと感じました。

「これは、〇〇はできないから」と固定観念に捉われず、こんなこともできるのではないかと、仕事に関わらず、更にプラスの視点を取り入れていきたいと感じました。(富澤)

青年海外協力隊の経験豊富者と岩沼地域住民と共に作りあげた居場所には、複合施設で住民も楽しめることと保育園、高齢者と障害を持った方がのびのびと自分らしく自分の役割が持てる生活の場所。当日私たちが食事中に、若い男性が(これ食べたいです)と手を出されてきました。見守り言葉を伝えると戻っていかれました。地域での生活の大切さを感じました。(桜井)

基本コンセプト「ごちゃまぜ」とてもステキだなと思いました。と同時に、「ごちゃまぜ」があたりまえになればいいなと思いました。挨拶が飛び交う中でお仕事されているのが印象的でした。ぱるけでも交流が苦手な子にも、もう少し頑張って挨拶できるように今よりもっと声かけしていければいいなと思います。(佐々木)



I ♥ 羊
手作リグッズや
野菜の販売が
いっぱい!

岩沼にある JOCA の施設を見て、地域との密着度の高さについて強く感じた。年齢や性別を問わず、誰でも気軽に立ち寄れるような空間が自然と地域との交流に繋がることを実感することができた。放課後等ディサービスは、閉鎖的な空間になってしまうことが多いと思う。地域との交流から放課後等ディサービスを身近に感じてもらいたい。(石山)

JOCA (青年海外協力協会) では地方創生事業に取り組んでおり、今回の研修では世代・国籍・障害の有無も「ごちゃまぜ」にして、地域で暮らしていくコミュニティづくりについて学んだ。東日本大震災をきっかけとして、岩沼市と JOCA が連携し多文化共生を目指した「IWANUMA WAY プロジェクト」が始まり、いわぬまひつじ村もその一つである。(佐藤律)

お話のなかで、「正しいを固定化しない」「当たり前を疑う」という言葉が印象に残っています。普段の支援や生活の中で、こうだから~かな、と誰しも判断し行動するものだと思いますが、行動に移す前に、それってどうなの?と考えることも大切だなと、改めて考えるきっかけになりました。色々な方法や、やりかたを考え続けることが福祉の仕事、また「ごちゃまぜ」には必要だなと感じました。(片平)



JOCA 東北鳥塚温泉には
温泉や足湯、ジムもあります。
おいしいおそばも!

ひつじさんのごはんタイム



ひつじ村での野菜の栽培ビニールハウスでの野菜や岩沼の特産にしているメロンなどの栽培工程を見せていただきました。ここは、就労支援 B 型が請け負っており、そこに地元の方のバックアップが大きく関わっていました。震災を機に青年海外協力隊と岩沼市のタッグでのまちづくりが大きく広がっていたのだと、感動しました。地域の方々とのあたりまえの日常にかかわっている施設は、とても自然で楽しい空間だと感じました。ぱるけも、心地よい空間、安心できる仲間や支援者との楽しいかわりを持ってたくさんの利用者さんと培ってきました。新しい試みやヒントがこの施設にはあったように思えます。(高橋)

今回初めてひつじ村に訪問し、たくさんのひつじたちと触れ合うことの出来る癒しの場だと思い、子供たちと一緒にまた来たいと思いました。JOCA ではごちゃまぜで過ごすメリットやデメリットを聞くことができ、新しい考えを知る機会となりました。(白幡)

なんて素敵なおところだろうと思いました。障がいの有無にかかわらず様々な方が社会の中に溶け込み、それが当たり前になる「日常的につながる」が普通にあり、まさに「ごちゃまぜ」という言葉が表現していて、ここに理想形がある、いや理想ではない現実にあるのだと感激をしました。(古林)

「ごちゃまぜ」というコンセプトは多様な社会問題を解く糸口と感じました。障害のある人との出会いや関わりは限定的で、それを理解し、困りごとを受け止めることが難しいのが現状。ぱるけの子どもたちとお出かけしたり、公園で過ごしながら様々な人たちと時空間を共有する。小さなことですが大切にしたい時間です。(尾留川)

お手伝い活動

ぱるけ南仙台編

ぱるけ南仙台は、小学1年生～中学1年生のお子さんが日々10名通っている放課後等デイサービス事業所のため、主に高学年を対象にお手伝い活動をしています。

エプロンを付けて自分たちが食べたおやつを洗う、お集まりではお友達やスタッフの名前を呼び、点呼をとるなどの係を日替わりで行っています。エプロンを身に付けたり、みんなの前に出てピシっとすることは特



別感があり頑張るモチベーションになっているようです。時々室内をモップ掛けしたり、ほうきとチリ取りで玄関や駐車場をはいてくれたりすることもあります。集団活動として長期休みに大掃除をすることもあります。この時は給与（おやつ引換券）を支払っています。低学年は高学年のしていることを見て「やりたい」と言ってくれることがあります。楽しみながら、将来のために今できることをしていきたいと思っています。

(文責：伊豆原)



新しい職員2名・復職1名のご紹介

ぱるけ南仙台



復職しました

白幡 里沙

6月より復職いたしました。初めての子育てで日々奮闘しています。

子ども達と毎日楽しくぱるけで楽しく活動していきたいと思っています。

子育てのライフハックがありましたら、ぜひ教えていただきたいです！

ご迷惑をお掛けすることがあると思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



はじめまして

荒川 琢磨

5月からぱるけ南仙台の一員として働く事になりました。以前は別な仕事をしていましたが子ども達と関わる仕事がしたいと強く思い働く事を決意しました。働き始めてからまだ1ヶ月が過ぎ周りの職員の方に助けをもらいながらも子ども達と一緒に成長できるよう努力していきたいと思っています。まだ未熟なところもありますが保護者の方々や子ども達のより良い日々のお手伝いができるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

ぱるけ中山



ただいま

佐藤 梨絵

中山の事業所が柏木にあった頃、5年半勤務しておりました。利用者さん、スタッフの顔ぶれは変わっておりますが、放課後等デイサービスが、利用者さんやご家族の方の利益を守る場であることは、継続されている使命だと考えます。

利用者さんと一緒に居るためにできることを考え、日々、更新してまいります。

よろしくお願いいたします。

「食」から季節を感じる



夏の暑さが本格的になってきた7月はじめ、代表理事から庭でとれたよ〜と、たくさんの梅が届きました。梅雨の真ただ中、蒸し暑い日々ですが、「梅雨」の文字通り、まさに季節の「梅しごと」梅シロップ作りを行いました。淡いオレンジ色の完熟梅。甘〜い香りが漂います。子ども達は、手に取り鼻を近づけ、「どんな匂いかな?」「もも?」「かき?」「うめ?」とやりとりする様子もありました。優しくコロコロと声をかけながら洗い、ペーパータオルに包み両手で「きゅっ」「きゅっ」と握り、水気をとる様子もありました。二日後には、砂糖の入った袋に梅を入れ、シャカシャカフリフリのスタート!「〇〇ちゃん、がんばれ〜!」の応援の掛け声に、照れながらシャカシャカする様子もありました。

透明な大きなビンに入った梅をながめ、思わず「おー!」との声も。「梅ジュース」は夏休みのお楽しみ! 今後も「食」から季節を感じる活動を続けていきます。

ぱるけの
食育活動より

梅の砂糖漬け (梅シロップ)



作り方

材料

- 完熟梅 1kg分
- 完熟梅 1kg
- 砂糖 300g

普通の砂糖で作る
簡単砂糖漬け。
ご家庭でもいかが
ですか。



- ①梅は竹串などでなり口を取り除き、やさしく洗う。 **コロコロ**
- ②ペーパータオルなどで水気をとる。 **きゅっきゅっ**
- ③傷んだ部分は取り除く。 **シャカシャカ**
- ④ビニール袋に入れ一晩冷凍する。
- ⑤別のビニール袋に砂糖、梅を入れてまぶす。
- ⑥容器に入れ、二日間ほど涼しいところに置き、水分が上がってきたら冷蔵庫に入れて、二週間ほど置く。

梅とシロップをお好みの量 (2 ~ 3 倍) をグラスに入れ、炭酸水や水で薄めジュースにする。

1人分120ml(果汁 20%飲料) エネルギー: 59kcal 食塩相当量: 0g

会員 令和5年度会員になってくださった皆様(敬称略) 7月10日現在 **正会員** 16名 **団体会員** 3団体 **賛助会員** 71名 **寄附者** 18名
(賛助会員寄附者合計 89名)

賛助会員 熊谷彰 榊原健太郎 関谷克朗 岩井秀樹 古里慎二 荒豊子 高橋真紀 板井佳月 太田誠 人見明美 國井厚嘉 本多真也 山崎悦郎 中野直子 齋藤真紀 山田幸雄 山内敏博 津田裕子 相馬美樹 阿部英樹 石川順 小林みのり 永瀬正和 根森秀和 伊藤幸恵

特定非営利活動法人 プロジェクトゆうあい 特定非営利活動法人 麦の会 特定非営利活動法人 にじと風福社会

寄附者 山納道子 古林俊晃 小野寺映夕 千葉雅隆 菅原由里香 一般社団法人仙台地域福祉共創会 日中活動支援施設 こくりの杜

令和5年度も賛助会員・寄附者年間目標数 150名を目標に大募集しております!

すでに多くの方から応援を頂き、職員一同大変感謝致しております。お預かりした会費や寄附金は、「障害児者とその家族が安心して生活することができる地域社会の構築」のためにぱるけが自主的に行っている、きょうだいの会 あみーごクラブ、成人余暇支援あみすたなどの NPO 活動費として大切にに使わせていただきます。令和5年度も引き続き応援をよろしくお願いいたします。

◇会費: 正会員5,000円/口・団体会員10,000円/口・賛助会員3,000円/口 または寄附: 3,000円以上

◇会費振込先 *振込先①: ゆうちょ銀行 02220-8-92726 特定非営利活動法人アフタースクールぱるけ

*振込先②: 77銀行 北仙台支店 店コード: 257 口座番号: 9125825 特定非営利活動法人アフタースクールぱるけ 代表理事 谷津尚美(やつなおみ)

注1) お振込みの際の手数料はご負担願います

注2) 振込先②の77銀行の場合は、振込後、事務局総務まで「お名前・住所・電話番号・応援いただける内訳(正会員、団体会員、賛助会員、寄附)をお知らせください

注3) 会員になっていただいた方、寄附して頂いた方のお名前をぱるけ通信に掲載いたします。不都合のある方は振込用紙通信欄にご記入いただくか、事務局総務までご連絡ください

今後の予定

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 8/11 ぱるけ南仙台、西中田、中山営業日、あみーごクラブ | 9/25 全体職員会議 |
| 8/12-15 お盆休み | 9/27 子どもの放課後支援をすすめる会職員研修 |
| 8/24 運営会議 | 10/17 運営会議+職員研修 |
| 8/30 全体職員会議 | 10/24 全体職員会議 |
| 9/18 あみすた(成人を祝う会) | 10月末 ぱるけ通信発行 |
| 9/19 運営会議 | |

【発行】

認定特定非営利活動法人アフタースクールぱるけ
〒981-0952 仙台市青葉区中山4丁目1-3 2

【TEL】 022-347-4685

【FAX】 022-725-6676

【メール】 npo-paruke@paruke.com

【HP】 <http://paruke.com/>

【Facebook】

<https://www.facebook.com/npoparuke>

レイアウト協力: 真山 正太

【お願い:書き損じはがき】 ぱるけでは、ご家庭で眠っている書き損じはがきの寄附のご協力をお願いしております。よろしくお願いいたします

【おすそわけ】 「おすそわけ」してみませんか?あなたの持っている「物」「時間」「情報」「スキル」など、ちょっとおすそわけをして、障害のある子どもたちや人々、その家族の笑顔をサポートしてみませんか?